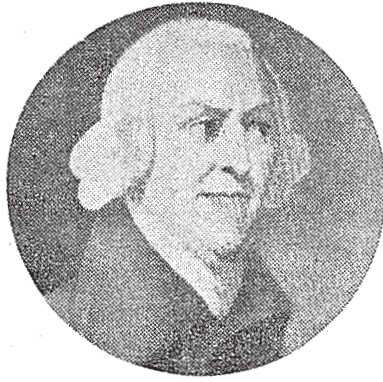




アダム・スミス

「国富論」200年

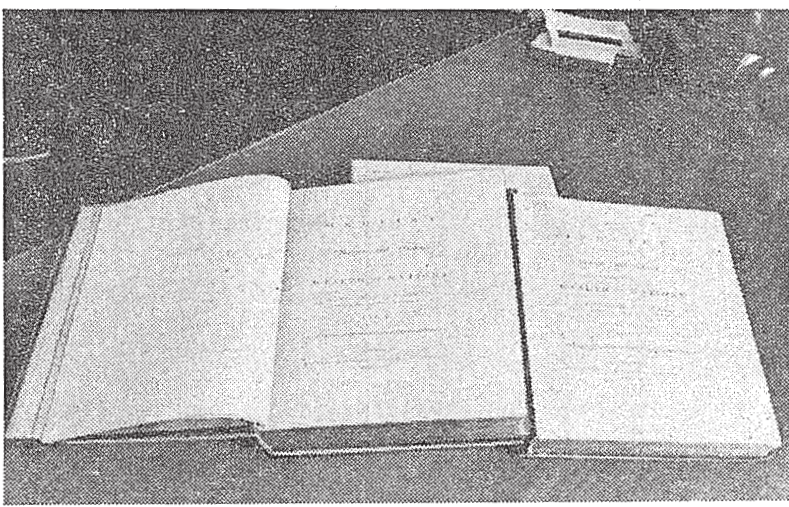
「国富論」を超える経済学は可能か

橋本 昭一

経済学上の文獻で、経済学の領域を越えて古典となった著作は、皆無といっていい。マックス・ウェバーとマルクスを除くなら、アダム・スミスの「国富論」(正しくは「諸国民の富の性質および原因についての研究」)を、その意味での古典に数えあげるのである。その著者の生誕200年を記念して、その著者の肖像を、本書の扉に用いた。人民が富むこと、それは国家が富むことにつながる。四つ折の「国富論」紙を、

影響力は連綿と強大であった。第1版が出版されたのは、この著書が出版されてから1776年3月に出版された、大方の予想に反して半年で初版を売り切った。病室にいたスミスは、「でかしたすばらしいスミス」と、熱烈な手紙を書き送った。また、同じ日、他の人物は「アダム・スミスが世に与えた恩恵は、贈物ではなく、むしろ、その本に込められた思想が、きわめて明快な言葉で、深遠のうちに、思想が表現されています」と、友人に書きました。

批判はあつた。しかし、賞讃の波は押し流されていった。一國の富は金銀の蓄積によって増加するのではなく、生産された財の交換によって生じるという主張は、明かに当時の列強の政策に背向するものであった。



「国富論」の時代
当時の國家がとっていた政策は、一般に重商主義と呼ばれていた。國家が貿易の他の取引に全面的に介入して、一國の金銀の流入を促進し、流出を抑制して、

出版100年後
市民社会の世論や法律に、有

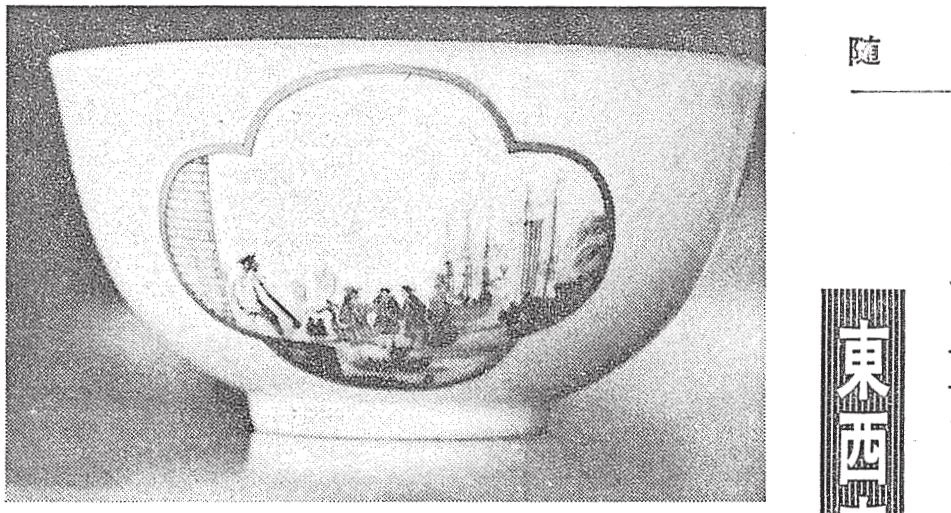
「現代日本教育史」
明治図書・九八〇〇円

出版100年後
経済学は発展をつづけた。何人

「国富論」の初版。絶版を浴び、わが半年で売り切った。

大庭 脩
七月の末、京都のよき店で

「東西文化交流史の夢」



「国富論」の初版。絶版を浴び、わが半年で売り切った。

新刊紹介
青組・新興教育の発展を教育

「国富論」の初版。絶版を浴び、わが半年で売り切った。

「国富論」の初版。絶版を浴び、わが半年で売り切った。

「国富論」の初版。絶版を浴び、わが半年で売り切った。